

へいじ  
瓶子窯跡

所在地	瀬戸市鳳山町
調査理由	東海環状自動車道建設
調査期間	平成15年4月～6月
調査面積	1,300 m <sup>2</sup>
担当者	藤岡幹根・武部真木



調査地点 (1/2.5万「猿投山」)

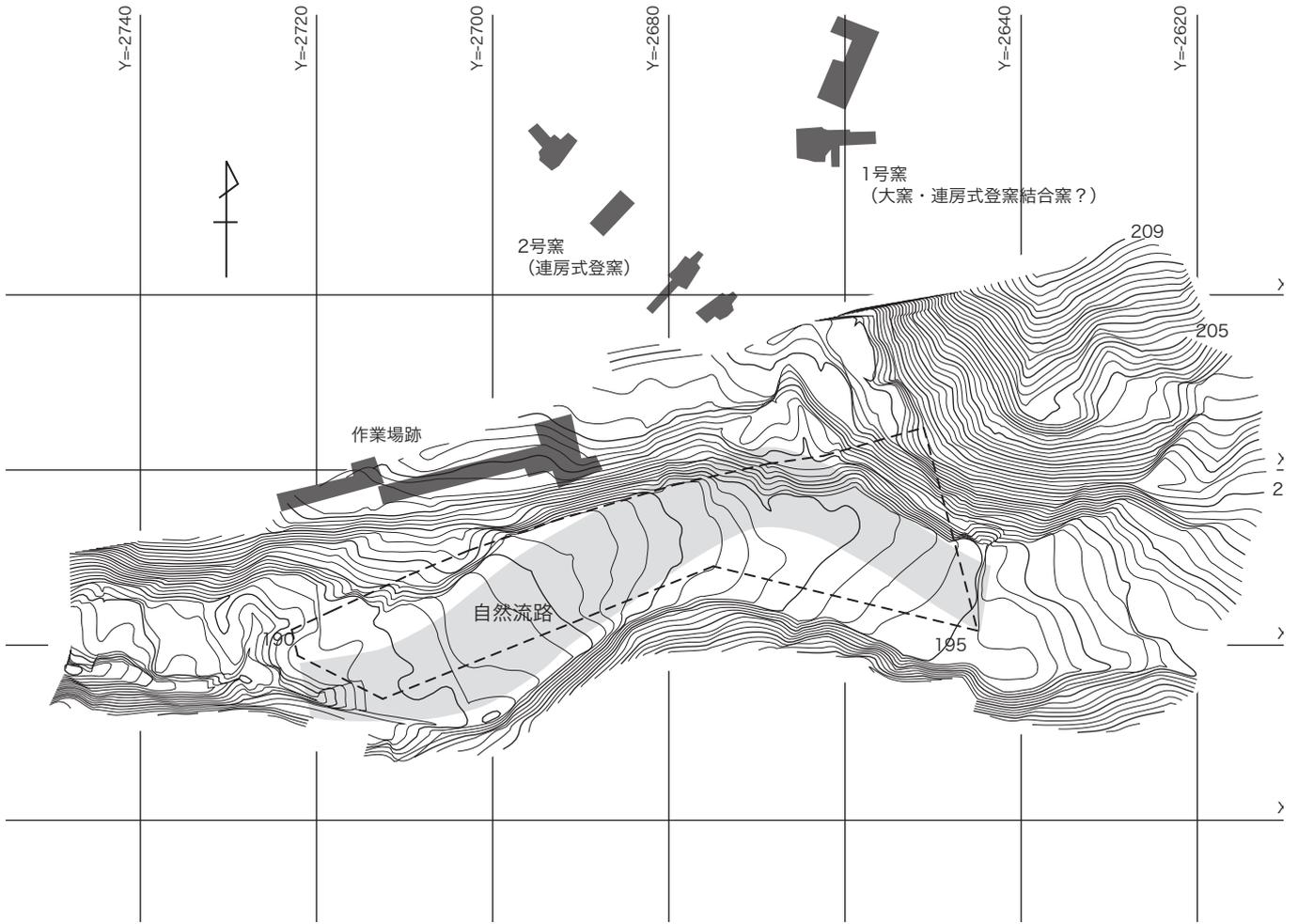
**調査の経過** 調査は東海環状自動車道建設に伴う事前調査として、国土交通省愛知県国道事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。瓶子窯跡は矢田川の支流である赤津川左岸の丘陵地に立地する周知の窯跡であり、瀬戸市埋蔵文化財センターによって平成10・11年度に窯体と周辺の試掘調査が行われた結果、17世紀半ば～後葉にかけて操業した連房式登窯と大窯・連房式登窯結合窯の計2基の窯体、および作業場とみられる平坦面などが確認されている。

**調査の概要** 今回の調査地点は、窯体からやや離れた灰原（物原）末端と想定される位置にあたり、現況は山林と湿地状を呈する谷であった。近世段階の谷底検出面は窯体焚口の最も低い部分からは約13m、作業場とされる平坦部より約1.5mの比高差を測る。東西方向に伸びる谷地形であり西側で赤津川に流れ込む。谷の幅は広いところで約8mあり、調査区は窯体方向から崩落した灰原の堆積する緩斜面と、谷底の自然流路の大きく2つに分けられる。

灰原部分は盗掘坑とみられる大小の攪乱が夥しく、操業期に関わる堆積状況を捉えることは困難な状況であった。灰原に含まれる大量の製品と窯道具には、茶入、丸碗、天目茶碗、皿、搦鉢、花瓶、徳利、銭甕、匣鉢、トチ、エブタ、焼台、窯体の一部などがある。また、一部資料には鉄釉で書かれた文字がみられる。多くは3cm角程度の製品破片に収まるように「あさ」「平」「大」など1～2文字である場合が多い。その他に匣鉢内部にも文字がみられる。これらには「色見」が含まれていると思われるが、意図が不明なものも多い。その他にロクロ成形の小型土師器皿が少量ではあるが、斜面上方で検出されている。

谷断面では表土・水田耕作土層が水平堆積し、その下は粗～細粒砂層、腐植質を多く含むシルト、粘土、泥炭層などの互層となり河川性の堆積がみられる。近世段階の自然流路の堆積層は、中央部分が急激な水流によって流出しているため、流路両端に分かれて残存する。ここからは夥しい破片とともに、完形に近い残存状況の良い製品も多く出土している。後者は茶入、搦鉢、銭甕など、地点によりそれぞれ集中する器種が偏る傾向が認められる場合があり、窯詰の方法あるいは製品選別に拘わる廃棄状況を示しているものと思われる。その他に当時の工人の使用したキセル2個体が出土している。

**まとめ** 調査は窯体から若干距離をおいた地点であったにも拘わらず、採取した製品と窯道具類は総量コンテナ800箱を超えている。操業当時に廃棄されその後流出した谷中央部分の堆積量を加えずとも、膨大な生産規模が窺われる。ここでは遺構は全く検出されなかったが、製品の他にも各種窯道具、工人の所持品など生産の状況や方法など生産内容の究明に有用な資料が多く含まれており、特に当該時期の窯業遺跡については、窯体以外にも周辺を広く含めた調査範囲設定の必要性を示すものとなった。 (武部真木)



瓶子窯跡周辺現況測量図 (1 : 800) (破線で示す部分が今回の調査区)



調査区全景



キセル出土状況



谷埋土中の遺物出土状況



内部に漆器碗の入った匣鉢